

## チェンマイ繁華街 ストリートチルドレン支援現場

9月17日 夜間講義(午後7時より9時)

フィールドスクールの参加者は3つの班に分かれ、出羽氏、元ストリートチルドレンのピアリーダーたち(計4名)の案内を受けながら夜のチェンマイの繁華街を歩き、ストリートチルドレンの活動や買春の現場、ミャンマーからの労働者の働く現場について解説を受けた。

講師：出羽明子、他4人のピアリーダー、

キーワード：ストリート・チルドレン、買春、HIV-AIDS、NGO、社会復帰

北タイ第一の都市、チェンマイは農村から出てくるさまざまな民族、国境を越えて職を探しに来るビルマ人、そして旅行に来る外国人が入り混じる活気にあふれる都市である。夜のチェンマイにはナイト・バザールと呼ばれる屋台が並び、歩道には昼にもまして人があふれる。そんな賑やかな街チェンマイであるが、夜の賑わいは買春という深刻な社会問題と表裏一体である。9月17日、ストリート・チルドレンを支援するNGO アーサー・パッターナー・デック財団のスタッフである出羽明子氏の案内・説明を受けながら、われわれは夜のチェンマイ繁華街を歩いた。以下の説明はすべて観察と出羽氏の話をもとにしているが、文責はすべて報告者が負う。

ターペー門広場はストリートに生きる子供たちのたまり場であり、農村から出てきたばかりのストリート・チルドレンがまず訪れる場所である。ここに来れば友人が見つかると思えるからである。同時に同広場は麻薬の受け渡しを行ったり、自分を買ってくれる客を待つ場所でもある。普段は9時ころからたくさん子どもや客待ちの女性およびトランス・ジェンダーが集まってくるらしいが、報告者が訪れた日は次の日のイベントのためテントが多く張られていたこと、そして数日前に起こったチーム同士のけんかだけが人が出たため警察が集まりを禁止したことが原因で閑散としていた。

観光客が多く訪れるターペー門広場周辺の通りには、所狭しと扉のないバーが並ぶ。ここでは花を売る子ども、美しく着飾った女性およびトランス・ジェンダーの人々、そして外国人客が目につく。バーで客寄せをする女性たちは露出度の高い服を着用し、男性が自分を「連れ出し」てくれるのを待つ。従来は店の中で性行為を行わせる店が多かったとのことだが、現在では店の女性と客は「個人の意思で」外に出るものとされ、店側は店の外で行われる性行為に対して、責任を持たない。それにより、女性は従来よりも高いリスクを負わなければならなくなっている。また、店で働く女性たちは月給をもらっているわけではなく、客に買わせた酒の代金のほんの一部を給料として払われている。これだけでは女性たちは生活ができず、結局客に「連れ出し」てもらわなければならない。女性たちはコンドームを付けずに性行為をすることも多く、HIV-AIDSが深刻な問題となっている。年をとった女性は客をとるのが難しいのではないかと質問に対し、出羽氏は「年をとると村に帰る人もいるが、40代を手前にエイズを発症しなくなってしまう人も多い」と答えた。

多くのストリート・チルドレンはこのような繁華街で花を売って生活費を稼ぐ。市場で花を仕入れ、それをレイ状にして女性を口説こうとする男性に売る。お酒の入った客を狙い、深夜になってからバーを回り歩く。出羽氏によると、小さいころからバーに出入りすることで、買春をすることへの抵抗感が減少し、彼らも同じ道に進んでしまう恐れがあるだけでなく、彼ら自身が酔った客に買われてしまうこともあるという。また、子どもを好んで買っていく客も多いため、彼らと性行為をすることにより生活費や麻薬代を稼ぐストリート・チルドレンも相当数存在する。彼らもまた HIV-AIDS の危険にさらされていると同時に、外国人や大人に対して強い不信感やトラウマを持ってしまうとのことである。

このようにさまざまな危険と隣り合わせに生きるストリート・チルドレンに寝場所を提供し、職業訓練により社会生活に適応できるように支援することが出羽氏の所属するアーサー・パッターナー・デック(ドーデック)財団の活動である。同財団は 5 歳から 18 歳の路上生活をしているタイ人、少数民族、そして近年急増している国境付近で生活をするビルマ人の子供たちを対象とし、タイ語教育、エイズ教育、ライフ・スキル・トレーニング、職業訓練を施すと同時に、「子どもの家」と呼ばれるシェルターを提供している。また、かつて路上生活をしていたが、同財団の活動に興味を示した子どもをピアリーダーとして採用し、ピアリーダーが他のストリート・チルドレンに自分の学んだことを広める活動も行っている。同財団はこれらの活動を通して、ストリートに生きる子どもたちをエンパワーし、彼らが社会生活に適応できるようになることを目指している。

(文責：牛久晴香)